

はるかな土地の記憶 洲浜昌三

「出雲國風土記」によれば

八束水臣津野命は出雲の國が若くて小さいので
海の彼方から四つの陸地を引つ張つてきたという

荒唐無稽で科学性がない 幼稚な作り話
と あなたは笑うかもしれない

栲衾、志羅紀の三埼を、國の餘ありや

とみれば、國の餘あり、と詔りたまひて、

童女の胸鉏取らして大魚のきだ衝き別けて、

はたすき穂振り別けて、三身の綱うち掛けて、

霜黒葛くるやくるやに、河船のもそもそりに、

國來國来と引き來縫へる國は、去豆の折絶より、

八穗爾支豆支の御埼なり。此くて堅め立てし

加志は、石見の國と出雲の國との堺なる名は、

佐比賣山是なり。亦、持ち引ける綱は藺の長濱、

是なり

次に北門の佐伎から狭田の國を引き

さらに北門の農波から闇見の國を引き寄せ

最後に高志の國から三穗崎を引いて縫いつけ

引き寄せた綱は伯耆大山 火神岳に固定したという

ここには何故か 高い空から俯瞰した記憶があり

何百万年前に分かれた大陸の記憶が幽かに残り

火を噴いた二つの山が大地を固めた記憶がある

氷河期が終わり 海面が上昇し 陸が島になり

大河の土砂が内海を埋めていった記憶が残り

何よりも 語り継がれた豊かな言葉と声が響き

現実を昇華する遊び心とロマンと詩の心がある

